

1 教育目標（目指す児童像含む）

◇基本目標 豊かな人間性を持ち、主体的に判断・行動し、自らの向上と社会の発展を目指してたくましく生きる児童を育成する。

- ◇具体目標 1 明るく思いやりのある子（思いやり）
 2 自ら考え進んで学ぶ子（創造力）
 3 元気でやりぬく子（体力・気力）

合言葉「今泉の子 やさしく かしこく たくましく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「明るく 楽しく 喜びいっぱい 心のふるさと今泉小」（キャッチフレーズ）の創造
 家庭、地域の信頼と協力の基、誰もが夢や希望を抱き、喜びややりがいをもって生き生きと生活し個々の力を伸長できる、児童、家庭、地域とともに歩む学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

(1) 自ら進んで考え、楽しく学び合う人づくり

- ・学習のねらいをより具体化・明確化する工夫と、地域教育力の積極的な活用

(2) 当たり前のことが自然にできる人づくり

- ・縦割り班活動（にこにこ活動）の充実と、地域ぐるみのあいさつ運動

(3) 自ら健康や体力づくりに励み、たくましく生きる人づくり

- ・体育授業や体育的行事等の充実と、家庭との連携を図った食育の推進

(4) 愛情や誇りを感じ、夢や希望のもてる学校づくり

- ・児童が今泉小のよさを実感し、愛情や誇りのもてる学校経営

(5) 9年間の学びをつなぎ、地域とともに歩む学校づくり

- ・地域内小中学校、保護者、地域、団体、企業などとの連携・協力体制の構築

【泉が丘地域学校園教育ビジョン】

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成

～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【 学 校 運 営 】

教職員が互いに高め合う職場環境（自律性・同僚性のある環境）づくりをするとともに、「地域はみんなの学校」を目指し、地域内小中学校、保護者、地域、団体、企業などとの連携・協力体制を構築し、地域の教育力を生かした教育活動の工夫・充実を図り、子どもたちが明るく生き生きと生活し、さまざまなふれあいの中で楽しさと喜びをもって個々の力を伸長できる学校づくりをする。

【 学 習 指 導 】

本時のねらいとまとめを明確にした分かりやすく楽しい授業づくりを工夫するとともに、表現力を高めることを意識しながら、自ら考え進んで学び合いを深めることができるように学習指導の充実を努める。

◆研究課題（テーマ）「自ら考え進んで学び合う児童の育成」～対話する力を育てる指導法の工夫～

【道徳教育（児童生徒指導）】

家庭・地域・学校園と連携して取り組む安全・安心の学校づくり

～人とのつながりを大切に、自分の成長を意識できる児童をめざして～

【健康（保険安全・食育）・体力】

一人一人の児童が主体的に、楽しく生き生きと活動できる充実した体育授業の展開

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※地域学校園内で共通する取組は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価（◎良好 ○ほぼ良好 ▲課題） 各対象の肯定的回答（％）から
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 縦割り班活動を充実させ、集会活動、「仲良しタイム共遊」など、いきいきと活動できるように努める。 ② 異学年交流による縦割り班清掃活動等、協力したり助け合ったりする活動の充実に努める。 ③ 発達の段階に応じた係活動や委員会活動、行事を通して学校への帰属意識を高めるようにする。	B	【達成状況】A1（◎） 教職員 100.0% 保護者 95.8% 地域住民 100.0% <u>児童 93.8%</u> ・児童の肯定的回答率が数値指標を達成し、保護者の肯定的回答率も昨年度とほぼ同程度であった。 【次年度の方針】 ・本校の特色である縦割り班活動や協力学年による農園活動、さまざまな体験活動をとおして、いきいきと活動する児童を育成する。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケート「先生は熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 教育公務員として自覚を深めるとともに人権意識を高め、すべての児童に公平に接する。 ② 児童個々のよさを見取り、褒めて伸ばすため、学習情報システム等を利用し、全児童を全職員で認め励ます情報交換をするなど、温かい指導に努める。 ③ 日常の研修と風通しのよい職場環境をさらに充実させ、組織で子どもたちを見守っていく。	B	【達成状況】A2（◎） 教職員 100.0% 保護者 93.4% 地域住民 100.0% <u>児童 96.2%</u> ・児童の肯定的回答率が数値指標を達成し、保護者の肯定的回答率は昨年よりやや低いものの90%以上であった。 【次年度の方針】 ・日常的な研修と風通しの良い職場環境づくりをさらに推し進め、チーム今泉で子どもたちを見守っていく。
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「学校の決まりを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 家庭や地域社会との連携を充実させ、「今泉小のあたりまえ」（挨拶・廊下の歩行・次の準備・身だしなみ・言葉遣い）を指針にさらなる学級指導や全体への児童指導を通して規範意識を高めていく。 ② 毎月の安全点検や安全指導の徹底を図り、児童が安全で快適に生活できるように努める。	B	【達成状況】A3（▲） 教職員 95.1% 保護者 89.7% 地域住民 100.0%<u>96.4%</u> <u>児童 82.1%</u> ・児童の肯定的回答率が数値指標を下回った。 ・教職員の肯定的回答率は比較的高いが児童が挨拶や廊下の歩行等で自己反省しているところとえられる。 【次年度の方針】 ・家庭や地域社会との連携をさらに充実させ「今泉小のあたり前五か条」（挨拶・廊下の歩行・次の準備・身だしなみ・言葉遣い）を向上させるべく、全体並びに必要な応じた個別指導を繰り返し、規範意識を高める努力を続ける。 ・具体策として、「友達アンケート」に「今泉小あたり前五か条」のチェック項目を入れ、毎月振り返って意識を高めさせる。

A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「勉強を分かりやすく丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 95%以上	① <u>校内研修等で、授業を互いに公開し、互いに高め合いながら授業力の向上に努める。</u> ② <u>ねらいを明確にした分かりやすいきめ細かな授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。</u> ③ 授業の展開や学習形態を工夫し学び合う学習を推進する。 ④ TT による指導や少人数による習熟度別学習を充実させ、個に応じたきめ細かな指導に努める。 ⑤ <u>今泉人材バンクや地域の施設を活用した体験的な学習を推進する。</u>	【達成状況】A4 (○) <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>81.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>95.5%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は昨年度同様数値指標を達成しが、保護者の肯定的回答率が低下した。 【次年度の方針】 ・教職員は校内研修や地域学校園研修等で授業を互い公開し、忌憚のない意見を交換することで互いに刺激し合いながら今後も授業力の向上に努める。個別指導や少人数指導を多く取り入れ、きめ細かい指導を進める。また、地域ボランティア等の協力を得て体験的な学習をより一層推進する。	教職員	100.0%	保護者	81.5%	地域住民	100.0%	児童	95.5%
教職員	100.0%									
保護者	81.5%									
地域住民	100.0%									
児童	95.5%									
A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「今泉小学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめの早期発見・早期対応や全校体制での支援に努める。 ② 各教科・道徳・学級活動・日常生活の指導を通し、いじめを許さない児童の育成に努める。	【達成状況】A5 (○) <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>73.0%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.2%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答は昨年を上回り今年も数値指標を大きく達成した。 【次年度の方針】 ・「いじめ防止対策推進法」をもとに、今後も家庭や地域と連携を図りながら、いじめ等の早期発見・早期対応に努めていく。 ・保護者の肯定的回答率が低いことから「児童指導だより」等を引き続き発行し、毎月行っている「友達アンケート」・年2回の教育相談・いじめ早期発見のための児童対応状況・家庭との連携のあり方などについて、実際に行っているいじめ対策をより積極的に公表するよう努める	教職員	100.0%	保護者	73.0%	地域住民	100.0%	児童	96.2%
教職員	100.0%									
保護者	73.0%									
地域住民	100.0%									
児童	96.2%									
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケート「日課、授業、行事などは、適切に実施されている」⇒保護者・教職員の肯定的回答 90%以上	① 学校マネジメント評価や学校評価（校内）の結果を検証し、工夫・改善をしながら適正な実施を推進する。 ② 学習指導要領等に基づく授業時間の確保に努めるとともに、年間を通して行事を適切に実施する。	【達成状況】A6 (◎) <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>96.4%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.5%</td></tr></table> ・保護者、教職員の肯定的回答が数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・学校マネジメント評価や教育課程評価をもとに子どもの立場に立った内容精選を図り、充実した教育活動を実施する。	教職員	100.0%	保護者	96.4%	地域住民	100.0%	児童	92.5%
教職員	100.0%									
保護者	96.4%									
地域住民	100.0%									
児童	92.5%									

A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート「学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 95%以上	① 授業参観や学校公開日を設定し、開かれた学校づくりに努める。 ② 学校便り、学年便り、その他各種便りやホームページなどで、継続して情報公開に努め、地域、保護者と課題を共有し課題解決を図っていく。	【達成状況】A7 (◎) <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>97.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr></table> ・保護者・地域住民の肯定的回答率が数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・学校便り、学年便り、その他各種便りによる情報提供に加え、ホームページやメール配信を活用し、全職員で情報発信ができるよう取り組んでいく。また、学校便りについては、毎月今泉地区全体に回覧板にて広報しているので今後も続けていく。	教職員	100.0%	保護者	97.5%	地域住民	100.0%		
教職員	100.0%									
保護者	97.5%									
地域住民	100.0%									
A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 95%以上	① 今泉小地域協議会を有効活用し、学校運営の充実を図る。 ② コーディネーター等と連携し、<u>地域人材や地域資料を有効活用した教育活動を推進する</u> ③ <u>地域や学校園との連携・協力をより一層推進する。</u>	【達成状況】A8 (○) <table><tr><td>教職員</td><td>97.6%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr></table> 児童 92.0% ・地域住民の肯定的回答率は、数値指標を達成した。保護者は、肯定的回答率をやや下回った。 【次年度の方針】 ・地域協議会や学校園、企業、地域との連携・協力を一層推進していく。また、保護者にもさらにボランティア等の協力を仰ぎ、学校と家庭との連携も強めていきたい。	教職員	97.6%	保護者	93.1%	地域住民	100.0%		
教職員	97.6%									
保護者	93.1%									
地域住民	100.0%									
A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 落ち葉清掃、花壇美化活動など、を通し、児童と教師がともに環境美化に取り組んで行くとともに花壇ボランティアの協力も得て環境整備に努める。 ② 壁面や廊下等を活用し児童の作品や参考資料を掲示したり、掲示ボランティアの協力を得たりして、学習や活動の意欲を高める環境づくりを推進する。	【達成状況】A9 (○) <table><tr><td>教職員</td><td>82.9%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.4%</td></tr><tr><td>児童</td><td>87.5%</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答率が数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・落ち葉清掃、花壇美化活動など、勤労活動を行い、児童と教師がともに環境美化に取り組んでいくとともに、ガーデニングボランティアにも協力を得る。 ・児童の作品を計画的に掲示するなど、壁面や廊下等の掲示環境を整える。また、保護者や地域の掲示ボランティアらの協力を得て、さらに学習しやすい環境整備を行う。	教職員	82.9%	保護者	88.1%	地域住民	94.4%	児童	87.5%
教職員	82.9%									
保護者	88.1%									
地域住民	94.4%									
児童	87.5%									

教育活動の状況	B1 危機管理対策等を充実させる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、安全な登下校、不審者対策等の安全管理に努めている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	① <u>地域とともに取り組む防災訓練等を充実させる。</u> ② <u>保護者や地域との連携を図り、下校時の見守り等の体制を工夫・強化する。</u>	達成状況】B1 (○) 教職員 100.0% 保護者 91.5% 地域住民 100.0% 児童 94.7% ・保護者、地域住民の肯定的回答は、数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・地域と共に取り組む防災訓練の充実により、今後も児童の防災意識を高め。また、地域の防災に取り組むことのできる児童を育成する ・下校の方法や見守りの方法を模索し、学校・保護者・地域で子どもの安全を見守る体制づくりをさらに推進する。
	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 率先垂範と児童・保護者への啓発に努める。 ② 児童会主体で、あいさつ運動を計画的・継続的に推進する。 ③ <u>小中一貫学校園と連携したあいさつ運動の推進を図る。</u>	【達成状況】A10 (▲) 教職員 75.6% 保護者 62.9% 地域住民 88.9% 児童 87.1% ・教職員・地域住民・児童の肯定的回答率は昨年より高く、地域住民と児童は数値指標を上回ったが、保護者は昨年よりも肯定的回答率が下がった。 【次年度の方針】 ・今年度の方針を継続するとともに、「友達アンケート」にチェック項目を入れ毎月の振り返りを行い、児童の自発的なあいさつを促す。 ・児童からあいさつ標語を募集し良い作品は校門外に掲示するなどして児童のあいさつへの関心を高める。 ・保護者の肯定的回答率が低いので、校内のみならず家庭でも進んで挨拶ができる児童を育成すべく便りや学級懇談会等で家庭での挨拶指導の啓発に努める。
	A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「適切な言葉づかいをしている」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 発達の段階に応じ、計画的・継続的に正しい言葉づかいの指導を行う。 ② 家庭との連携を図り児童・保護者への啓発に努める。	【達成状況】A11 (▲) 教職員 78.0% 保護者 68.2% 地域住民 100.0% 児童 81.6% ・教職員・保護者・児童の肯定的回答率が数値指標を下回った。地域住民は数値指標を達成した。教職員と保護者は昨年より肯定的回答率が下がった 【次年度の方針】 ・正しい言葉づかいについて、学習指導や学級活動等で全体に指導する。言葉づかいの指導が必要な児童に対し、折に触れ個別指導を行い、定着を図る。また、適切な言葉づかいがなかなか身に付かない児童については、家庭と連携を密にし、学校・家庭で協力して継続的な指導を行う。「友達アンケート」に「今泉小あたり前五か条」のチェック項目を設けて振り返りを行い、次の月に生かせるようにする

	B2 学年・学級経営を充実させ、望ましい人間関係づくりに努める。 【数値指標】 全体アンケート「友達と仲良く生活している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① クラス単位又は縦割り班で遊ぶ時間を計画的に取り入れ、活動の充実を図る。 ② ふれあい週間等を活用し、児童一人一人と触れ合う時間を確保したり、アンケートやQ-U検査等を活用したりして、問題行動の早期発見・解決を図り、望ましい人間関係づくりに努める。 ③ 定期的に児童指導に関する研修を実施し、共通理解を図る。	B	【達成状況】B2 (◎) <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.6%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>97.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・今年度の方針を継続し、さらに活動が充実するように努める。	教職員	100.0%	保護者	94.6%	地域住民	100.0%	児童	97.0%
教職員	100.0%											
保護者	94.6%											
地域住民	100.0%											
児童	97.0%											
	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「休み時間などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 今年度から保護者・地域住民のみアンケート質問を「児童は平日の授業後や休日などに積極的に運動している」に変更	① <u>クラス全員で共遊の時間をとったり、「元気っ子ファイル」を活用したりするなどして、意欲的・継続的に運動ができるように努める。</u> ② 体育の授業を中心に「今泉小版ミニマム」を策定し各種運動の基本が分かり挑戦できる環境をつくる。	B	【達成状況】A12 (○) <table><tr><td>教職員</td><td>90.2%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>56.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>82.4%</td></tr><tr><td>児童</td><td>89.3%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が数値指標を達成した。 【次年度の方針】・教職員や児童の肯定的回答率は大きく下がっていないので、学校では教科体育や休み時間に進んで運動を行っていると思われる。 ・保護者・地域住民の肯定的回答率が前年比で大きく下がったのは、質問内容の変更があったためだと思われる。平日の授業後や休日に、家庭や地域で運動をしている児童が少ないとの回答となった。運動ができる環境が身近に整っていない地区ではあるが、家庭でも行える運動等を紹介することで、運動に親しむ素地を作っていきたい。	教職員	90.2%	保護者	56.5%	地域住民	82.4%	児童	89.3%
教職員	90.2%											
保護者	56.5%											
地域住民	82.4%											
児童	89.3%											
健康・体力	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒保護者・児童の肯定的回答 80%以上	① 栄養士による授業や家庭との連携を図り、好き嫌いをなくすなど健康的な生活習慣を確立する。 ② 給食だより・保健だより等の発行を通して食の大切さや健康の大切さを啓発する。 ③ <u>お弁当の日（2回中1回は地域学校園として共通の日）</u>等を活用し食への関心を高める。	A	【達成状況】A13 (▲) <table><tr><td>教職員</td><td>90.2%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>74.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>80.2%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率が数値指標をやや上回った。保護者は昨年度よりは向上したものの、まだ肯定的回答率が数値目標を下回っている 【次年度の方針】 ・教職員の肯定的回答率が昨年より向上して90%を超えたことから、給食について日常的に良く食べる児童が多くなったと考えられる。各種便りの発行に際し、保護者に食育・健康について今後ともわかりやすい文面で知らせていく。 ・おにぎりの日・お弁当の日の設定は、食への関心を高めるのに有効であった。 ・28年度も昨年度に引き続き校内にて保護者対象の食育講演会を実施し、多くの保護者の参加を得た。次年度も食育・健康の重要性についての啓発に努める。	教職員	90.2%	保護者	74.1%	地域住民	100.0%	児童	80.2%
教職員	90.2%											
保護者	74.1%											
地域住民	100.0%											
児童	80.2%											

学 習	B5 児童は、自分の歯に関心をもち、食後丁寧に歯磨きをしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分は、食後ていねいに歯磨きをしている」⇒児童の肯定的回答70%以上	① 歯と口の健康に関する意識を高めるために、学級担任と養護教諭が連携して、歯磨きに関する授業や保健指導を行う。 ② 保健だよりを毎月1回発行するとともに、むし歯のない児童を表彰して歯磨きへの意欲を高める。 ③ 児童保健委員による1・2・3年生への歯磨き指導を実施する	【達成状況】B5（○） <table><tr><td>教職員</td><td>95.1%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>69.7%</td></tr><tr><td>児童</td><td>93.3%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率が数値指標を大きく上回ったが、保護者の肯定的回答率は昨年よりもさらに低い。 【次年度の方針】・教職員の肯定的回答率は約95%あったので、歯磨きに関する授業や保健指導、歯の衛生週間の実施は給食後の歯磨きに生かされていると考える。保護者の肯定的回答率が低いことから、家庭での食後の歯磨きがまだ十分でない児童がいると思われる。今後も、学校保健給食委員会やホームページ掲載などで歯磨きの大切さの啓発に努め、歯磨きの習慣化につなげたい。	教職員	95.1%	保護者	69.7%	児童	93.3%	
	教職員	95.1%								
	保護者	69.7%								
児童	93.3%									
A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「いっしょけんめい勉強している」⇒児童の肯定的回答90%以上	① 自分の考えを発表できるような場を、さらに設定するとともに、自己表現とコミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫をする。 ② <u>地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」を活用して、児童・保護者に家庭学習について啓発する。</u> ③ 学業指導を充実させ、体験的学習や問題解決学習を積極的に取り入れ学習意欲の向上に努める	【達成状況】A14（○） <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.0%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.8%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童が自分の考えを発表できる場をより多く設定するとともに、発言意欲を促すような発問の工夫を行い、表現力・コミュニケーション力の向上を図る。 ・家庭学習の手引きを配布するとともに、児童用に印刷して手元に置いて家庭学習の方法を身に付けさせる。 ・児童の学習意欲がより向上するような指導方法を取り入れるよう努める。	教職員	100.0%	保護者	88.0%	地域住民	100.0%	児童	91.8%
教職員	100.0%									
保護者	88.0%									
地域住民	100.0%									
児童	91.8%									
A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「授業中に先生や友達の話をよく聞いている」⇒児童の肯定的回答85%以上	① 授業において、基本的な聞く・話す態度、返事や発表の仕方の定着を図る。 ② 友達の話をよく聞いて、互いに認め合う態度や自己肯定感を育てられるよう工夫していく。 ③ 学習開始時刻の着席・学習用具の準備・文字を書く姿勢等基本的な学習習慣の定着を図る。	【達成状況】A15（○） <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>86.8%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>86.4%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は数値指標をやや上回った。 【次年度の方針】 ・教職員の肯定的回答率が100%なので児童がやや厳しめに評価したとも考えられるが、基本的な聞く・話す態度、発表の仕方については今後も継続的な指導を行う。返事が明確でない児童が見受けられるので、折に触れ個別指導を行う。 ・自分の考えと友達のことを比較しながら聞いたり、聞いた話の内容をよく理解したりして、互いに認め合う態度を育成する。 ・落ち着いて学習に取り組む第一歩は学習習慣の定着なので継続的に学習習慣の指導に努める。	教職員	100.0%	保護者	86.8%	地域住民	100.0%	児童	86.4%
教職員	100.0%									
保護者	86.8%									
地域住民	100.0%									
児童	86.4%									

本校の特色・課題等	B3 学びあう学習の推進 【数値指標】 全体アンケート「勉強は、友達と学びあいながらして、分かりやすく楽しい」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 学びあう「場」や「時間」を学習の中に設定し実践に努める。 ② 「読む・聞く・話す・書く・考えを人に伝える」に加えて「友達の考えを受け入れる」等の活動をさらに充実させる。	【達成状況】B3 (◎) 児童 91.7% ・児童の肯定的回答は数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・次年度も学習形態を工夫し、学び合う場や時間を学習の中で多く確保する。 ・友達の考えを受け入れる等の活動をさらに充実させる。
	B4 自分の学校のよさを実感し、自校への愛情や誇りがもてる。 【数値指標】 全体アンケート「学校のよいところ、自慢できることを知っている」⇒児童の肯定的回答80%以上	① 学校・学年行事等で児童の活躍できる場を充実させ、充足感のある学校経営に努める。 ② 学校のよいところ、自慢できるところを具体的に実感できるような活動を展開する。 ③ 公共物を大切にす指導をする。	【達成状況】B4 (○) 教職員 92.7% 保護者 83.6% 児童 80.0% ・児童の肯定的回答率は数値指標と同じだった。 【次年度の方針】 ・今後も教職員が折に触れて児童の良い取り組みを称賛し、個人、学級、学年、学校に対する肯定的な視点を育む。 ・道徳で、愛校心の授業に力を入れるとともに、児童会活動や学級活動、学年行事などで学校の自慢できるところを具体的に実感できるような活動を展開する。 ・行事等で児童の活躍できる場をさらに充実させる。

〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○今年度も設定した数値指標が達成された項目が多かった。特に、児童・地域住民についてはほとんどの項目で昨年度の肯定的回答率を上回る結果となった。教職員については、マナーと言葉づかいの項目がやや低下したが、他は昨年と同程度であった。保護者については、昨年と同程度かやや低下した項目があった。児童の日常の様子やアンケートの全体的な結果等から見ても本校教育は今年度も適切に進められていると考えられる。

- ・児童は明るく素直で落ち着いた学校生活を送っている。進んで発言や話し合いを行い積極的に学習している。友達とも仲よく生活したり学び合ったりしている
- ・教師は教えるべきことを熱心に指導し、学校の教育課程は適切に実施されている。
- ・保護者や地域住民は、学校教育にさまざまな場面で連携・協力してくれている。

○アンケートで肯定的回答の割合が低かった項目は、あいさつ・言葉づかい・放課後の運動・歯磨きであった。学校でも教育活動全体において今後も折に触れ指導を続けていく。ただ、これらの項目は、大人である教職員・保護者・地域住民の、子どもに対する関わり方が大切な項目でもあるので、成果向上に向けて学校からお便り等で情報発信をしたり、学級懇談会で話し合ったり、参観日に向上を目指す内容の授業を公開したり、親学講座を設定したりして重点的に取り組んでいく。

6 学校関係者評価

1 アンケート結果で課題（達成状況が不十分）と思われた項目について

（１）あいさつについて

- ・児童のあいさつが難しい現状であることについて話し合った。低学年は比較的大きな声であいさつをするが、高学年はややあいさつの声が小さいとの意見が出た。
- ・保護者の肯定的回答率がかなり低いことが問題となった。学校での指導と同様に家庭でのあいさつのしつけも大切であるとの意見が出た。家庭でどれくらいあいさつができているか、保護者の目から見た児童のあいさつ評価シートを作成したり、児童が家庭でのあいさつを自己評価したりするとよいのではとの意見が出た。
- ・学校・地域・家庭で、まず大人が率先してあいさつをし、子どもがあいさつをしたときはきちんと子どもに返すようにするとよいとの意見もあった。

（２）その他

- ・言葉遣い・歯磨きについては、児童・地域・教職員の肯定的回答率に比べ保護者の評価が低かったので、家庭生活の中で改善に向け子どもにまめな声掛けをするよう知らせてはどうかとの意見が出された。
- ・放課後や休日の運動不足については保護者の肯定的回答率がかなり低くなった。放課後も塾や習い事が多いためや、地域の環境を考えるとスポーツ少年団にでも入らない限り運動は厳しいのではとの意見があった。学校の体育の授業で競争心を持たせるなどして対処してほしいとの意見が出た。
- ・どの項目についても今後も家庭・学校・地域で連携した指導が大切であると話し合った。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

うつのみや学校マネジメントシステムのアンケートでは、今年度も全体的に肯定的な回答の割合が高く、保護者や地域の方から一定の評価が得られたものと考えている。平成29年度もさらなる教育活動の充実を目指し、特に下記のことを重点に取り組んでいく。

- ・「明るく 楽しく 喜びいっぱい 心のふるさと今泉小」を目指し、学校と家庭・地域との連携・協力を深めながら、ふれあい・体験活動をさらに充実させ、知・徳・体のバランスのとれた児童育成に努める。
- ・児童が喜びややりがいをもって生き生きと生活し、個々の力を伸長できる学校づくりに努める。

○校内研修だけでなく地域学校園での相互研修等を充実させ、教職員の指導力・授業力の向上を図る。

○あいさつや言葉遣い・食育・運動については、引き続き地域学校園や地域協議会活動の中核とし、保護者との連携を密にしながら取り組んで行く。